

令和7年度 学校評価

本年度の学校評価

本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育の推進 ・ 児童生徒の発達段階及び障害特性に応じた、きめ細やかな教育活動 ・ 保護者及び地域のニーズを踏まえた積極的な情報発信 ・ 校内及び地域における特別支援教育を推進していくための教員の専門性の向上 ・ 南海トラフ地震を想定した具体的(現実的)な対応策の検証(保護者との連携) 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策		評価と課題
小学部	きめ細やかな教育活動	良好な人間関係の構築とコミュニケーション力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態や課題を把握した上で、情報共有を行い、指導・支援に役立てる。 ・ 部集会や他学年との共同活動の中で、他者と関わる機会を増やし、コミュニケーション力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員間の情報共有による指導・支援は、職員へのアンケートの結果、約8割が達成できており、共通認識のもと適切な体制が整った。 ・ コミュニケーション力の育成と人間関係の構築については、アンケートより約6割の職員が「できた」と回答し、目標に向けて概ね順調で今後も継続実施していく。
中学部	激甚災害への対応	防災意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災食の喫食、被災生活、避難用の滑り台など体験活動を取り入れ、災害時に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き渡し訓練時の喫食体験では、備蓄食を変更した結果、完食率が昨年度の約20%から約85%まで大幅に増加した。 ・ 水消火器の取り扱いや避難用滑り台など体験的な活動を通して、災害時でも安全に利用できることが分かった。防災学習の学年ごとの内容を整理し、総合的な学習の時間等で実施できるように計画していく。
高等部	きめ細やかな教育活動	持続可能な学校間交流の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインを活用した交流など、間接的な交流及び共同学習について実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回交流後のアンケートでは、本校生徒の7割が「とても楽しかった」「楽しかった」と評価した。 ・ 本校文化部の壁新聞や作業班(クラフト班)の作業製品アンケートに協力してもらうなどの間接的な交流を実施した。
総務	きめ細やかな教育活動	きめ細やかな教育活動を行うための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員室内の起案文書等の整理整頓をし、廃棄文書等の確認を行う。 ・ 職員室内や事務室にある事務用品の在庫確認や、整理整頓を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保存期限の過ぎた文書廃棄後、起案文書の配置について調整を行った。より使い易い配置を設定することと、増えていく文書の保管場所の確保が課題である。 ・ 職員が使用できる事務用品をグループウェアで紹介を行った。総務の事務用品の在庫確認をし、データ化を行った。開校当初に購入した物の老朽化が進んでいるので、限られた予算の中で、どの備品を優先的に購入していくかが課題である。
教務	道徳教育の推進	道徳の授業づくりと評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳に関する指導内容を年間指導計画に表記し、授業づくりに役立てる。評価の視点や方法について現職研修を行い、職員の専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科・領域等の年間指導計画に道徳の内容項目を表記することで、指導場面が明確になった。現職研修で具体的な指導例や評価の視点について示し、職員の専門性が向上し、授業づくりに役立てることができた。授業実践を職員間で共有し、児童生徒の道徳性を高めていく。
教育情報	積極的な情報発信	配付文書のペーパーレス化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭への配付文書をデータ化し、一斉メール配信やホームページ掲載で周知することで、保護者が情報にアクセスしやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭への配付を目的とするほぼ全ての文書を電子化することができた。今後は保護者への調査等の電子化も積極的に進めていく。 ・ 作成したメール配信マニュアルを施行し、配信権限を広げることができた。
研修	教員の専門性の向上	専門知識のアップデート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主研修への意識を高めるために校内外の研修を幅広く紹介し、eラーニング研修の締め切りを定期的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体への周知とともに関係する職員に向けてピンポイントで研修案内をすることで研修に対する意識が高まった。eラーニング講座は38講座のべ98名が受講した。研修の周知を積極的に行うことで、職員の研修に対する意識も高まるので、今後も周知を継続する必要がある。
生活指導	激甚災害への対応	防災対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災マニュアルの見直しと改善を行う。 ・ 防災用品の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の校内体制、職員の役割分担等を整理し、マニュアルの見直しを行った。今後は職員に周知していく必要がある。 ・ 保護者の意見を聞き、非常食を変更した。
進路指導	積極的な情報発信	進路指導に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学区域を中心とした福祉サービス事業所の情報を整理し、保護者に卒業後の進路への関心を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「校区3市1町事業所情報」を更新し、現在の福祉サービス事業所の情報をまとめた。卒業後の進路までの流れや進路の情報を保護者に継続して伝え、家庭と連携を図っていく。

保健体育	教員の専門性の向上	緊急時における職員の実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と連携した実践的な訓練の実施をする。 ・ 緊急マニュアルの周知の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱中症を想定した救急搬送研修を行った。運動場での連絡方法が課題となった。 ・ 4月の現職研修に加え、初任者研修でも各種マニュアルの確認を行った。周知の為に教室のマニュアルの掲示場所、方法を統一する必要がある。
相談支援	教員の専門性の向上	校内及び地域における教員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内では、外部専門家活用事業を利用し、研修会や事例検討を実施し、指導支援力の向上を図る。 ・ 地域の教員向けに実態把握に基づいた支援について研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部専門家による講義と事例検討で得られた専門的な知識や助言をもとに、支援方法の改善が行われた。支援の継続や引継ぎが課題である。 ・ 多くの研修参加者は、新たな児童生徒理解の方法を学び、支援に関する情報交換ができた。特別支援担当教員の増加に伴い、初心者と経験者が共に学べる研修内容の設定が課題である。
学校評議員会での評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校いじめ防止基本方針に基づく取組を進めるとともに、道徳教育を通して他者を思いやるなどの人権意識の向上が図られたか。 ・ 児童生徒の発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育を行うことができたか。 ・ 保護者及び地域のニーズを収集し、学校運営に反映した取組を発信できたか。 ・ 職場環境を整え、会議の精選により、働き方改革を推進することができたか。 ・ 防災教育を進めるとともに、激甚災害への校内体制を整えることができたか。 		

<経営管理上の問題点等>

- ア 小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育課程のさらなる整備と開かれた学校づくりの推進及び情報発信
- イ 適正な業務分担、職場環境の整備並びにICTを活用した業務改善
- ウ 特別支援教育における専門性及び根拠に基づいた指導が充実するための組織力の向上
- エ 教室不足の対策として、物品の整理整頓及び教育環境の改善